

平成27年度全国学力・学習状況調査 結果及び分析

平成27年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の分析概要をまとめました。本調査により測定できる学力は一部であり、教育活動の一側面にすぎません。

各学校が児童生徒の学習・生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導の充実・改善、児童生徒の一人一人の学習改善や意欲的な学習態度の育成につなげるための指標として提示します。

久喜市教育委員会

◆結果

国語A（主として「知識」に関する問題） 国語B（主として「活用」に関する問題）

区分	国語A			国語B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体	75.7	74.9	75.8	64.9	64.7	65.8
話すこと・聞くこと	79.6	79.1	79.7	71.4	70.4	72.2
書くこと	72.1	72.2	73.6	33.3	34.1	36.7
読むこと	85.6	85.0	86.1	61.7	61.8	62.6
伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	73.3	72.1	72.9	—	—	—

◆成果と課題（○：成果について ●：課題について）

内容別結果については、昨年度は全国正答率を下回っていた伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項が、今年度は全国正答率を上回っている。その他の内容について、国語Aにおいては、全国正答率と同程度である。国語Bにおいては、全ての項目で全国正答率を下回っている。

【成果が見られる点】

- 目的に応じて要旨を捉えること
- 表現の工夫について自分の考えをもつこと

【課題のある点】

- 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと

◆指導改善のポイント

- 文章の展開を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くには、文章や資料から必要な情報を取り出し、自分の考えを支える根拠を示しながら書いたり、話し合ったりする学習活動を取り入れる。その際、根拠となる内容が適切に取り上げられているか、読み手にわかるように示されているかなど複数の観点から見直すように繰り返し指導する。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くためには、複数の本や資料から得た情報を自分の考えと結び付けて考えることが重要である。そのために、学校図書館やインターネットなどを利用して主体的に情報を探したり、新聞を活用し多様な情報を関連付けて読んだりする指導を行う。
- 資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気づきや問題意識を明らかにする場を設ける。

◆結果

数学A（主として「知識」に関する問題） 数学B（主として「活用」に関する問題）

区分	数学A			数学B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国(公 立)
全体	64.2	63.2	64.4	41.3	40.4	41.6
数と式	65.9	66.4	67.7	62.1	61.0	63.2
図形	63.8	62.5	63.4	39.9	38.5	39.0
関数	62.3	60.1	61.7	30.1	29.8	30.7
資料の活用	64.4	61.4	63.0	30.2	29.5	31.2

◆成果と課題（○：成果について ●：課題について）

数学A、数学Bともに県正答率を上回っている。内容別結果については、数学A「図形」「関数」「資料の活用」の項目、数学B「図形」の項目において全国正答率を上回っている。数学A「数と式」の項目においては、全国正答率を下回っている。

記述式の問題については、正答率が34.5ポイント（全国は34.8ポイント）と、課題がある。

【成果が見られる点】

- 直線や平面の位置関係や図形の表面積と体積を求めること
- 与えられた資料を度数分布表に整理すること

【課題のある点】

- 小数を含む方程式や連立方程式を解くこと
- 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明すること

◆指導改善のポイント

- 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり、式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算を身に付ける丁寧な指導を行う。また、等式の性質を根拠にして式変形を行うことを繰り返し指導する。
- 日常的な事象を数学的場面に置き換えて考える活動や問題解決のために図を利用して、言葉で説明する活動を取り入れる。
- 実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する能力を養う指導をする。
- 事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて的確に説明できるようにする。また、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるようにする。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果

中学校・理科

◆結果

理科

区分		理科		
		久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		51.8	51.6	53.0
第1分野	物理的領域	47.6	46.7	48.9
	化学的領域	54.0	54.1	56.2
第2分野	生物的領域	61.6	61.2	62.2
	地学的領域	45.9	46.9	46.4

◆成果と課題 (○：成果について ●：課題について)

4領域（物理・化学・生物・地学的領域）すべてにおいて全国正答率を下回っている。

無解答率は、地学的領域以外の3領域では、全国平均より約6ポイント以上高く、特に、記述式や短答式の問題における無解答率が高いことが課題である。

理科室で観察や実験を多く行っていると答えた生徒ほど平均正答率が高い。

【成果が見られる点】

- 実験結果を言葉で記録した表から必要な情報を読み取り解釈すること
- 自然事象についての基礎的・基本的な知識を身に付けること

【課題のある点】

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自他の考えを検討して改善すること
- 結果を分析して解釈したり、規則性を見いだしたりすること

◆指導改善のポイント

○観察や実験の進め方が間違っていないか振り返ったり、考察の際に課題に正対しているか等の視点を示したりするなど、考えを説明したり発表したりする学習活動を充実させ、自他の考えを検討して改善できるようにする。

○実験で用いる水溶液を特定の質量パーセント濃度でつくる学習場面を設定したり、線分図などを利用して視覚的に捉えながら計算することで、理解がより深まるようにする。

○実験結果を数値で表にまとめたり、「○○が～になると、それに伴って△△が…になる」のような表現で文章にまとめたりする場面を設定し、規則性を見いだすことができるようにする。

○指導のねらいに応じて提示する自然の事物・現象に留意し、生徒が自然の事物・現象から問題を見だし、「適切な課題」を設定する学習活動を充実させ、課題解決に見通しがもてるようにする。引き続き、目的意識をもった観察や実験を重視し、科学的な見方や考え方を養う。

○原理や法則の理解等を目的としたものづくりや自作した器具で観測等を行う場面を設定する。

◆結果

生活習慣

項目	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
将来の夢や目標を持っていますか	74.3	74.9	71.7
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	72.4	71.8	68.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	91.0	92.1	93.7

学習習慣

項目	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
自分で計画を立てて勉強していますか	56.8	52.2	48.8
平日1時間以上勉強をしていますか	71.4	70.0	69.0
家で、学校の宿題をしていますか	87.0	87.7	89.3

「その他」

項目	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
地域や社会をよくよくするために何をすべきかを考えることがありますか	41.1	38.0	32.9
今住んでいる地域の行事に参加していますか	47.2	43.0	44.8
1日30分以上読書を読みますか	34.0	32.9	30.6

◆成果と課題 (○：成果について ●：課題について)

【成果が見られる点】

- 生活習慣では、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する姿勢が育っている。
- 自分で計画を立て勉強すること、平日1時間以上勉強をすることが身についている。
- 地域や社会をよりよくすることを考え、地域行事に参加し地域と共にある姿が伺われる。
- 読書については多くの生徒の日常に定着している。

【課題のある点】

- 家で、学校の宿題をしている割合が全国より低い。

◆指導改善のポイント

- ・「将来の夢や目標をもつ」「毎朝朝食を食べる」については家庭の協力を得て100%を目指す。
- ・地域と共に育っている様子が伺える。地域のために何ができるかを考えるが、人の役に立とうという意識は若干低い。日頃から感謝の気持ちをもち指導をしていくことが必要である。
- ・家庭学習や予習復習はしっかりするものの、宿題についての意識は低い。宿題の意味を理解することや、教科間の連携を図るなどして、計画・継続的な宿題を設定する必要がある。